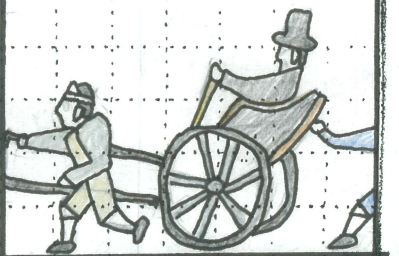


花ござタイムズ

茶屋町

令和4年8月25日
茶屋町小学校6年
長谷川友奏



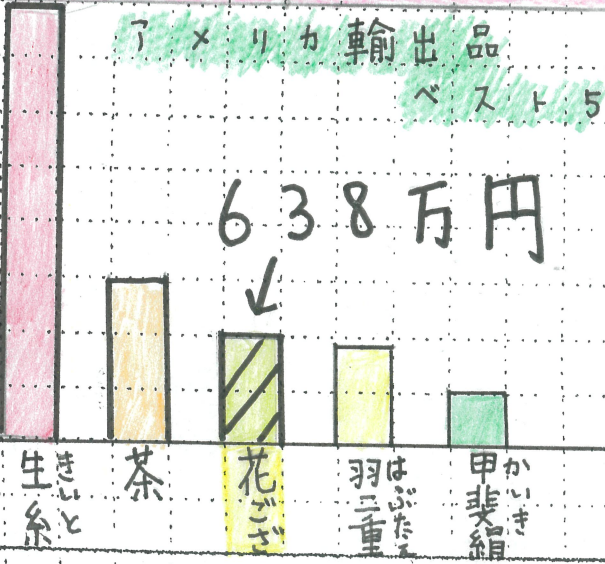
売り上げ 三億八千万円

みなさんは茶屋町に世界的芸術品として有名なものがあるのを知っていますか。それは花ござです。

明治十四年イギリスのロンドンで人気に火がつき、日本の主な輸出品となりました。アメリカへの売り上げはなんと六百

世界で大人気！花ござ

アメリカ輸出品ベスト5



三十八万円。今のお金にするると三億八千万円にもなるそうです。

花ござとは？

正しい名前は錦莞莖(きんかんえん)といいますが、他にも花ござといわれます。染めた麻や木綿を編み込み、様々な模様を織り上げたものです。せいでうちみつなのの特ちょうです。



眠亀記念館に展示されている錦莞莖

備中茶屋町今神戸

明治二十三年ごろから外国の人が茶屋町へよく来るようになった。当時花ござはヨーロッパやアメリカで人気でかべやてんじょうにかざる芸術品として、たくさん商人が茶屋町に買いに来ました。花ござで町が栄えたようすは神戸とひかくされるほどでした。

眠亀記念館 でインタビュー

8月3日水曜日磯崎眠亀記念館をたずねました。眠亀の自宅では花ござの道具を展示した資料館になっています。資料館の人の話では、かんたんな地だった茶屋町では、塩のえいきょうでいねが育たず代わり花ござの原料のいぐさが古くから採るよう

になったそうです。花ござのえいきょうで茶屋町は発展したそうです。花ござの織り機は、現在残っている作り方に、ついてはなぞとなっていて、調査している人もいます。

眠亀磯崎発明家



錦莞莖でなくさまさまな発明をしています。

コラム

磯崎眠亀さんの錦莞莖は世界中から買っていく人がいたことにおどろきました。しかし、今では作られる技術がとたえ、花ござが作られていないことが不思議です。なぜ作らなくなったのか調べてみたいと思います。百年たっても色をおちせず、さまざまに美しい模様で見ると、人を魅了させてくれる花ござをみなさんもぜひ見てください。